

# こども政策の 現在地と 展望

日頃から各々の立場でのご尽力に感謝  
第1回スタッフ研修への参加にも感謝  
貴重な時間をいただくので有意義になると良い  
録画&見逃し配信を予定、早送り(時短)で見れる  
良かったよと、周囲に薦めてもらえるよう頑張る

令和7年7月4日(金) 第1回こども家庭支援スタッフ研修  
高山市 こども政策課長 前田 研治 ※前田の私見を含みます

# まずは自己紹介

- 平成9年 静岡大学経済学科卒業、高山市役所入庁  
年明け51歳になる
- 会計課、商工課、  
総務課（地方公共団体情報システム機構へ出向）
- 市民課、**子育て支援課**（3年半）を歴任  
市町村合併 遊び場、児童扶養手当、母子家庭支援など
- 平成22年 財政課（予算査定、財政計画）
- 平成27年 都市計画課係長（景観、公共交通、空家対策）
- 平成29年 企画課係長（総合計画、政策調整、若者政策）  
「村半」の計画→整備運営
- 令和3年 行政経営課長（DX、公共施設、官民連携）  
「DX推進計画」策定推進
- 令和5年～ **現職**（子育て支援課長→こども政策課長）
- 令和6年～ 「こどもまんなか・ぎふ推進会議」委員  
「岐阜県こども計画」の外部有識者メンバー15人で唯一の自治体職員

## INTRODUCTION

こども政策課長



まえだ けんじ  
**前田研治**

# そして本日の狙い

# PURPOSE OF THIS TALK



AIなど技術革新  
気候変動、国際情勢  
ニーズ・価値観の多様化 など

先の見通しが持ちにくい  
変化が速い、そんな時代

VUCAの時代 (予測不能)

制約条件、原因の原因、ターゲティング

① **事実** (現状課題)  
を把握すること

理想 (あるべき姿) を設定、現在地とのギャップ

② **目標** (目的地)  
を明確にすること

同志を増やす (数は力)、目標へのアプローチ

③ **共感** (行動指針)  
を拡大すること

# 話す順はこんな感じ CONTENTS

各章で関連はありつつも、それぞれの話  
1時間半、長いので疲れたら休みつつ、興味持てそうな部分を聴いてくだされば結構

## 01 数字を追い、原因に迫る

### 現状を顧みる

少子化や若者の意識などの  
状況を踏まえ、その原因を  
推定

## 03 高山市のこども政策の展開

### 足元を眺める

20年ぶりに新しい姿形を  
した計画が爆誕、一緒に  
なって推進

## 02 国の話を中心に全体を俯瞰

### 潮流を捉える

自身の言動を考えるための  
制約条件となる、国や県の  
動向を把握

## 04 特に重要と思うことを焦点化

### 妄想を並べる

市の公式見解ではないとお  
断りしたうえで、いくつか  
の視点を提供

お気楽にぶっ飛ばす





01

数字を追い、原因に迫る

# 現状を顧みる

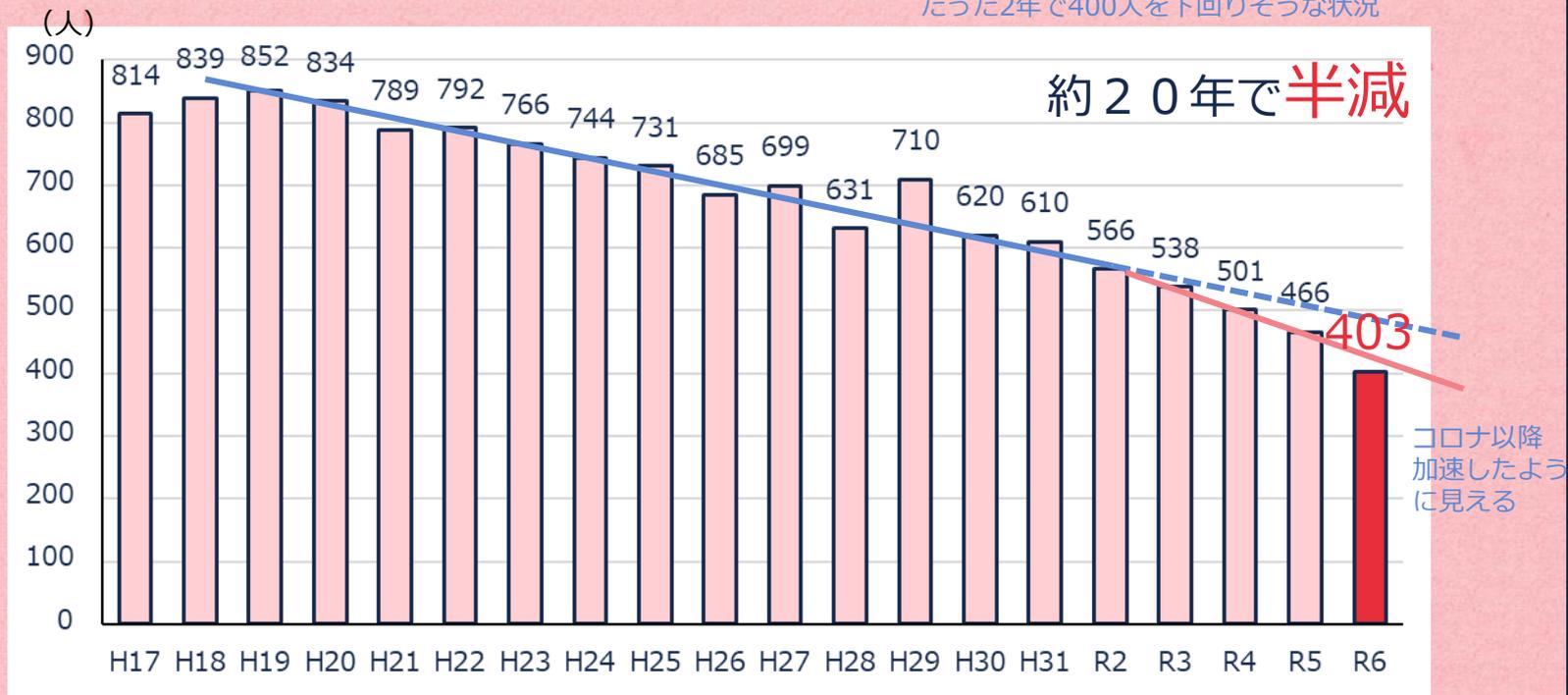
少子化や若者の意識などの  
状況を踏まえ、その原因を  
推定

導入部



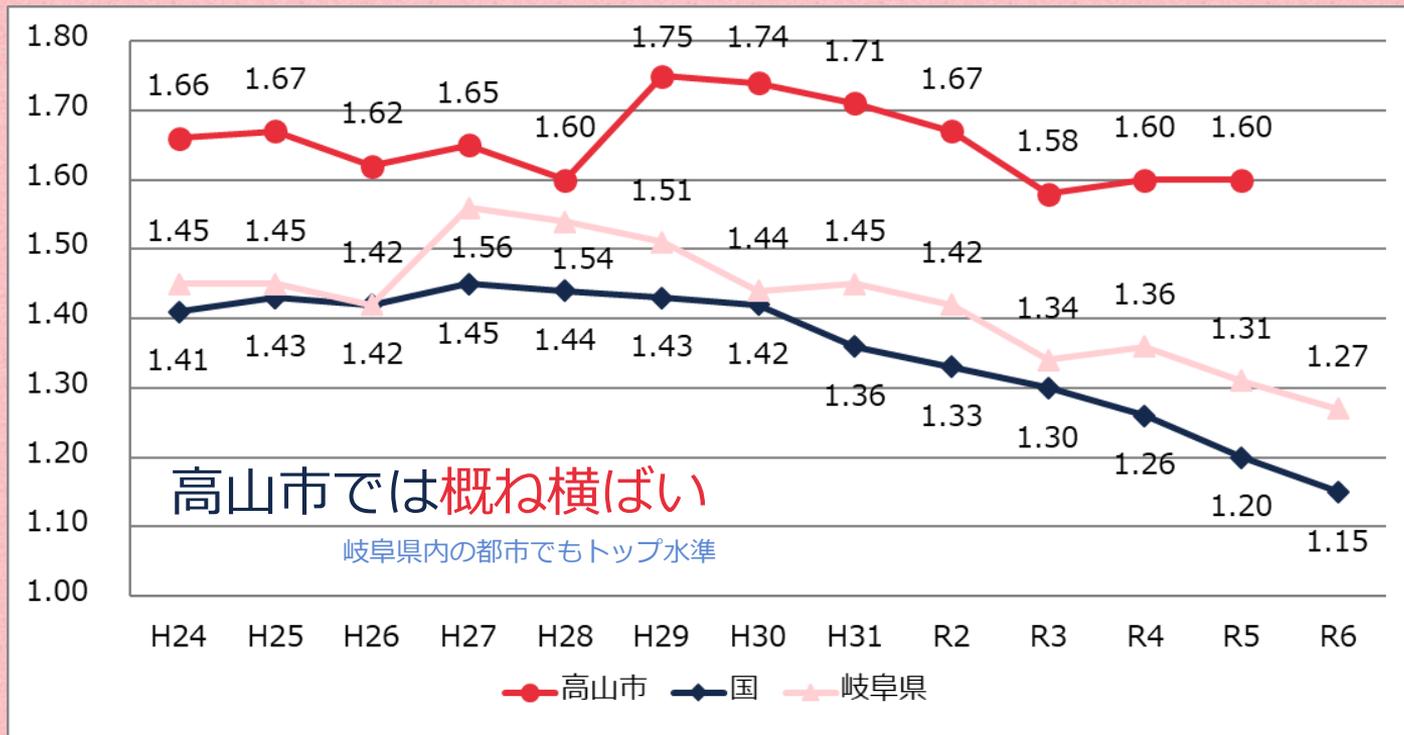
# 高山市の出生者数の推移

令和4年度500人を下回りそうと驚いていたが  
たった2年で400人を下回りそうな状況



# 合計特殊出生率の推移

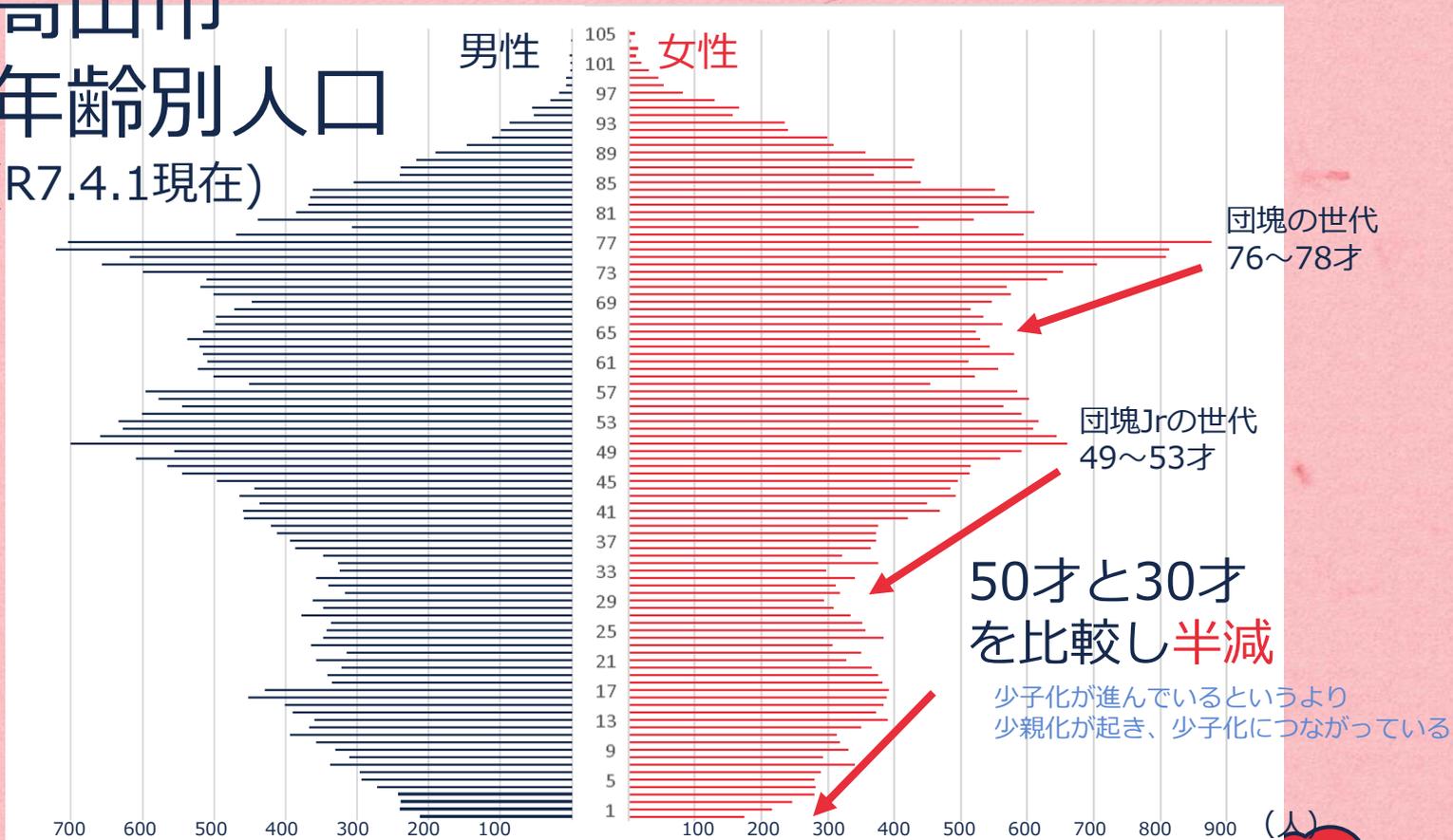
合計特殊出生率には単位なし  
無次元量（物理単位がつかない数値）



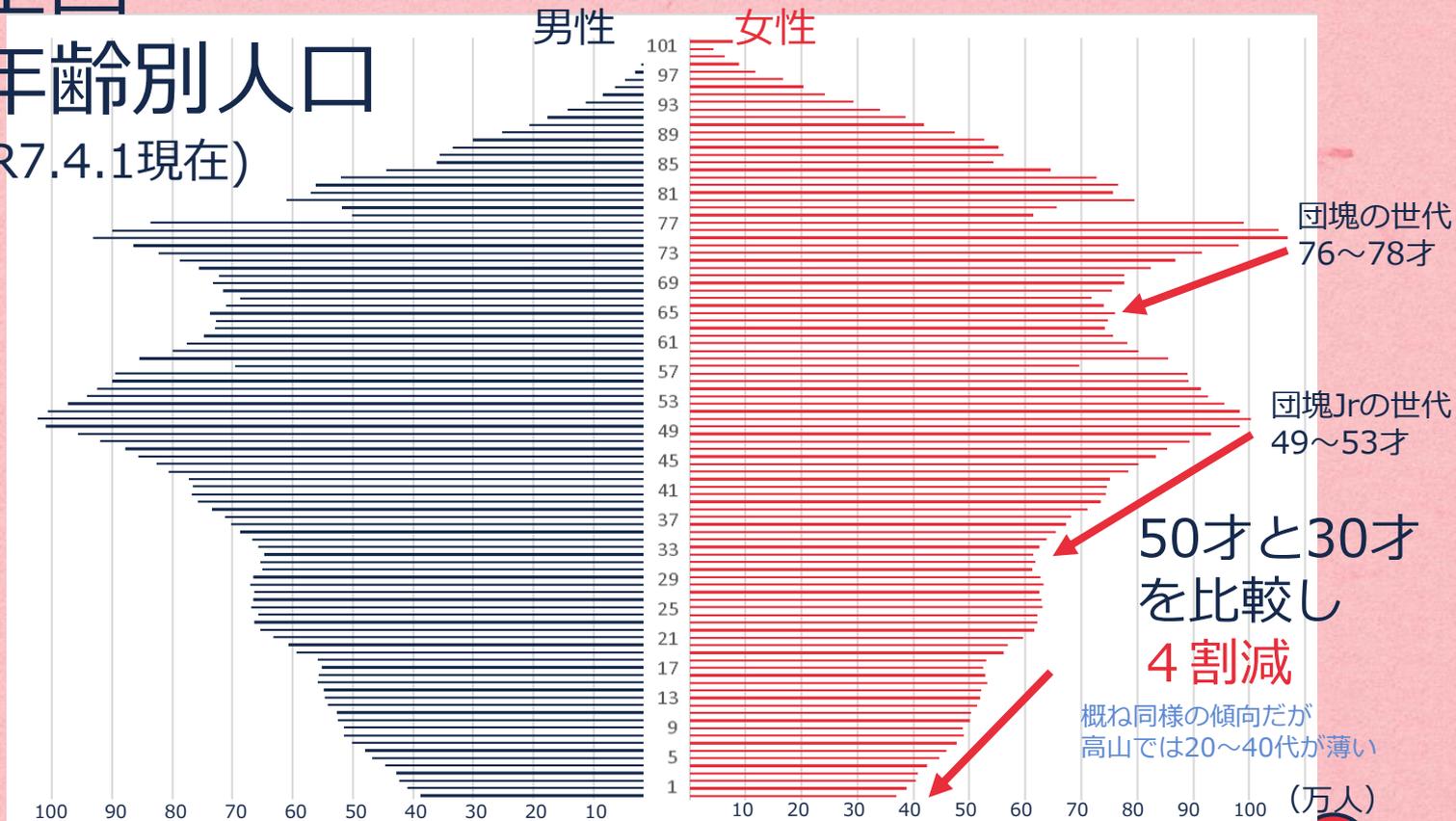
合計特殊出生率…一人の女性が生涯に産むこどもの数の指標（人口を維持できる水準約2.07）

# 高山市 年齢別人口

(R7.4.1現在)

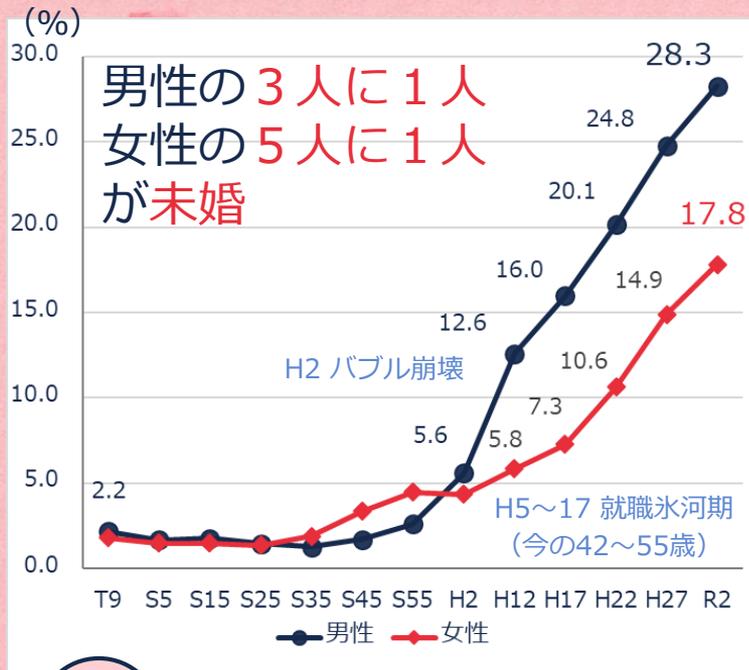


# 全国 年齢別人口 (R7.4.1現在)

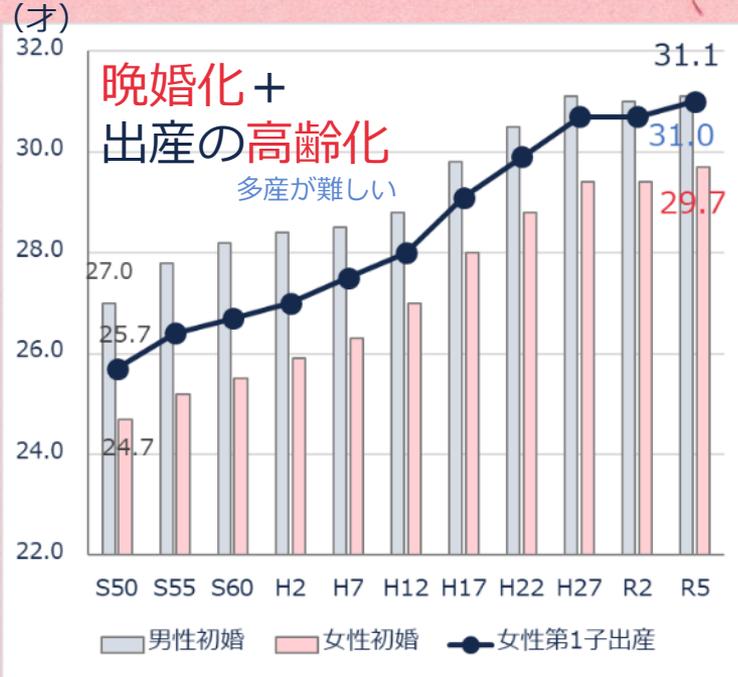


# 結婚、出産の状況 (全国)

## 50才時の未婚割合の推移

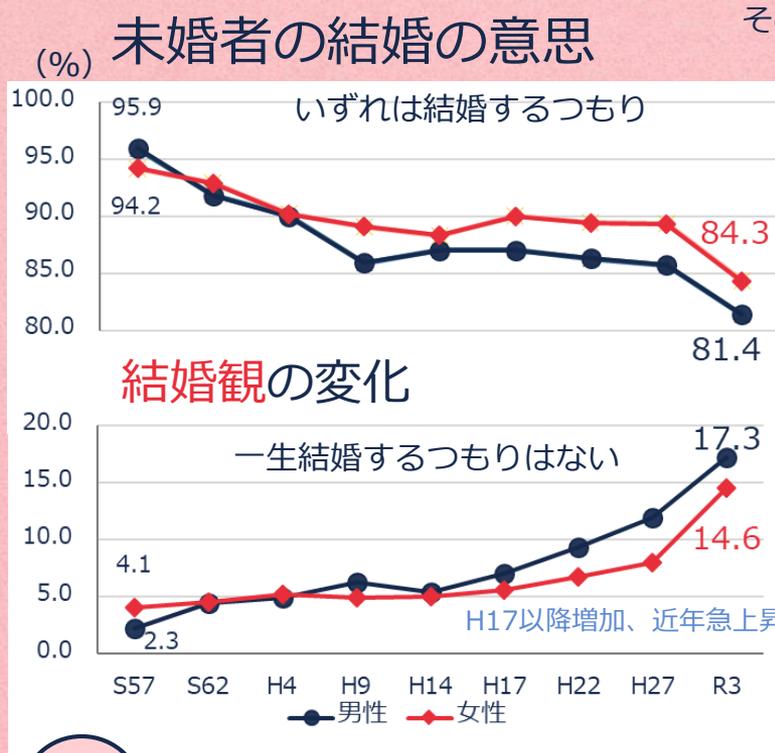


## 平均初婚、出産年齢の推移

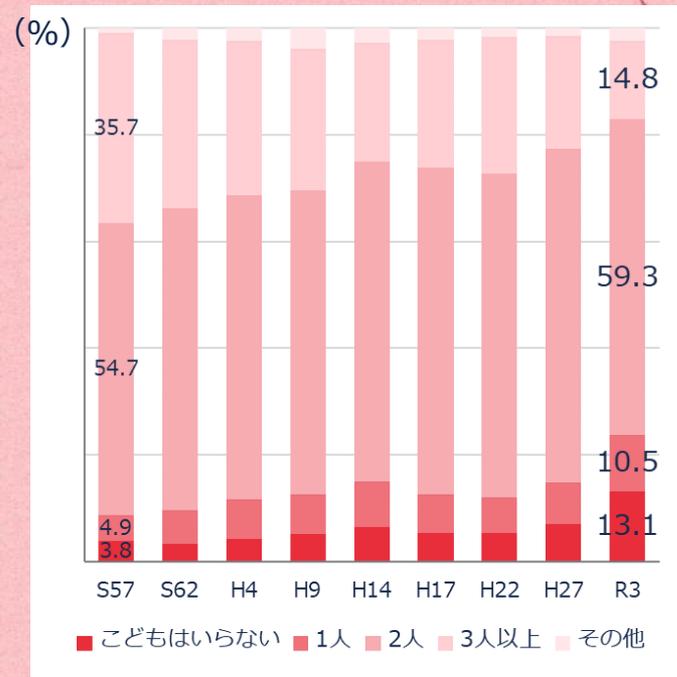


出典：厚生労働省「人口動態統計」

# 結婚、出産に対する意識（全国）



そのうち 女性未婚者の希望こども数



こどもは不要  
少人数で良い  
と思う女性が  
増加

出典：厚生労働省「人口動態統計」

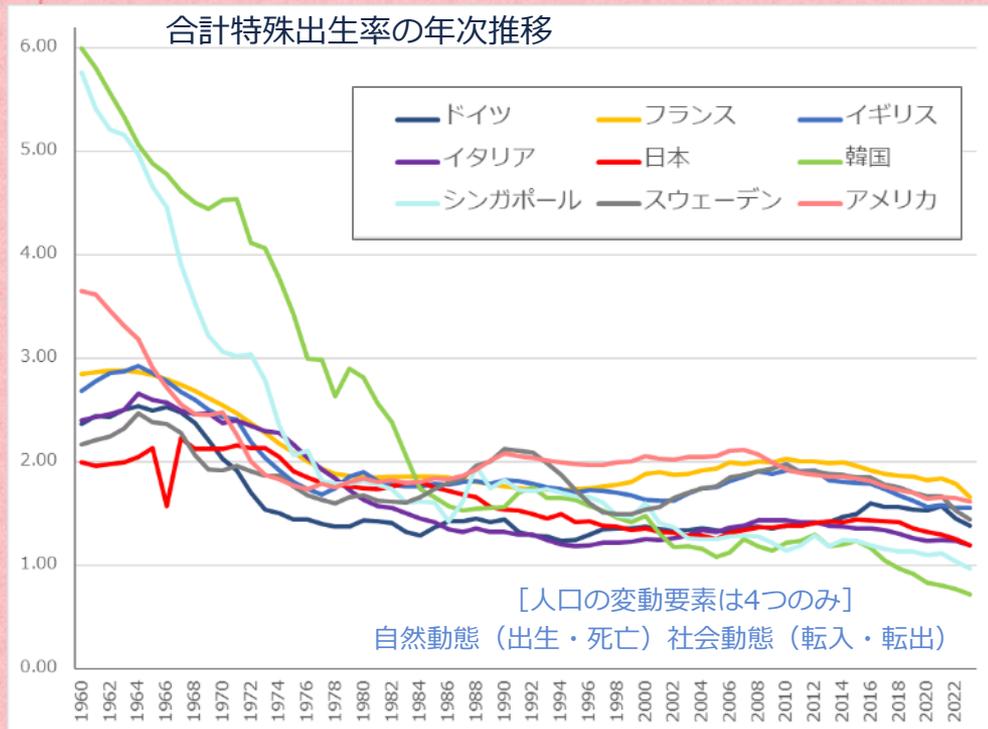


# 何故こんなことになったのか？

【途上国】

こどもは労働力として重視  
教育や医療が不十分  
社会的、文化的背景から多産 など

## ①先進国では少子化は「必然」



2023年値で、6.0を超えるのは、ソマリアなどアフリカ5か国（ベスト50か国の中にアフリカが40か国ランクイン、第50位はナミビアで3.2）

アジアでは、アフガニスタン4.8、パキスタン3.6など

オセアニアでは、サモア3.8、バヌアツ3.6など

世界全体では2.2で、人口維持水準である約2.07を超えている

世界全体では人口増加中  
左の国でも総人口の減少はイタリア、日本だけ

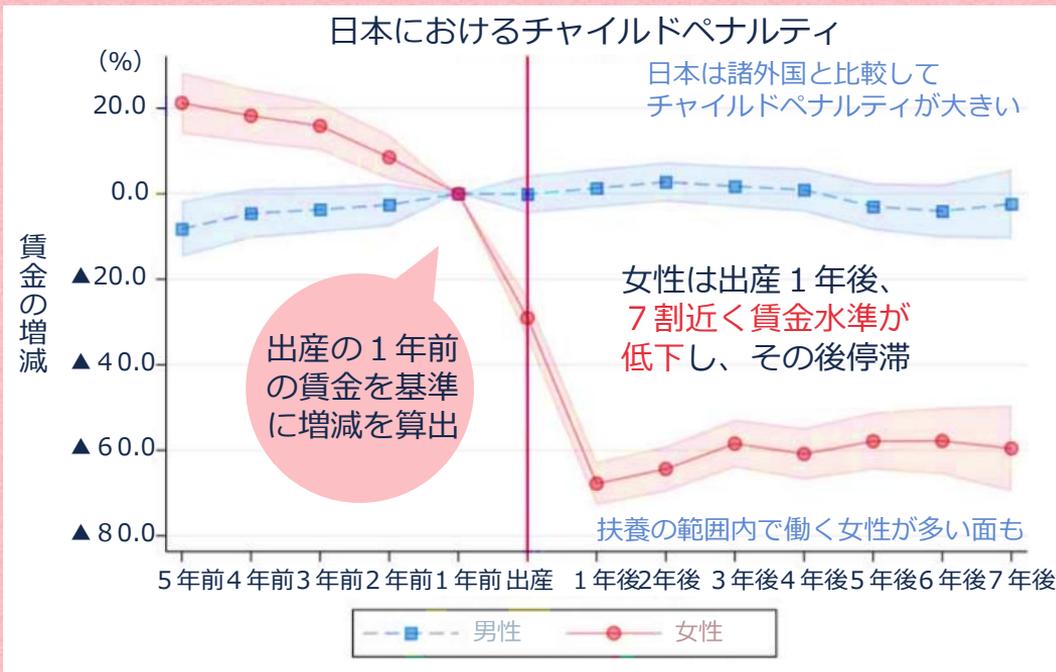
人口減を回避している国は、移民を受け入れている

⇔トランプ米国大統領の移民政策



# 何故こんなことになったのか？

## ②チャイルドペナルティ（子育て罰）の存在



こどもを持つことによって生じる社会的・経済的に不利な状況のこと

母親が陥る可能性が高く、学歴などの性差が解消されても残る男女間格差の要因とされる

出産による賃金低下だけでなく、広い概念で子育て世代に「罰」を与えるかのような社会の価値観、政策、企業慣行などを含む場合あり

他方でチャイルドペナルティが発生していても、こどもを持つことが、個人や家計に対し、全体としてマイナスの影響を与えているとは限らない点にも留意が必要

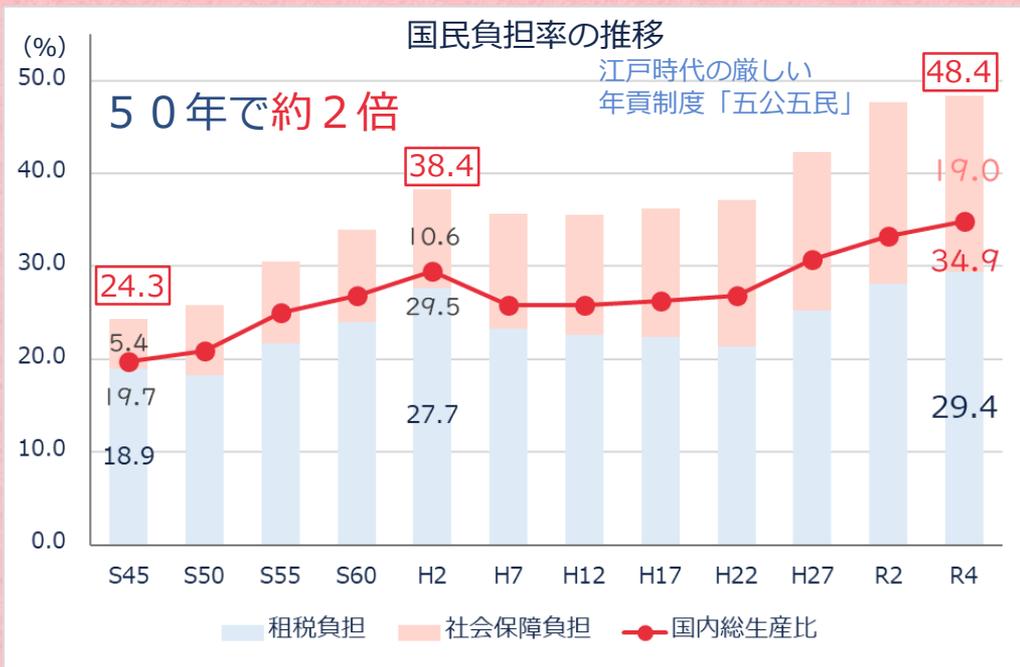




# 何故こんなことになったのか？

フランス68.0、イタリア60.1  
スウェーデン55.0、ドイツ54.9  
イギリス47.6、韓国44.8  
アメリカ33.9

## ③若い世代を含む国民の暮らしぶりの悪化



国民負担率 =  
(租税負担 + 社会保障負担)  
÷ 国民所得

税金や保険料などが増えれば上昇  
個人や企業の所得が増えれば下降

負担率が高いほど、私たちが自由に使えるお金が縮小

こども1人を22才まで育てる費用  
(厚生労働省データ)  
公立 16,000~20,000千円  
私立 30,000~50,000千円

こどもを持ちたくても、持てない  
(余裕のない) 時代になっている  
可能性あり

H2バブル崩壊

H27~結婚観の変化とリンク



# 02

国の話を中心に全体を俯瞰

## 潮流を捉える

自身の言動を考えるための  
制約条件となる、国や県の  
動向を把握

# 展開部



# [国]こども家庭庁の創設（令和5年4月）

首相

こども政策担当大臣

今は三原じゅん子氏

**こども家庭庁**  
複数の機関に分かれていた出産・育児・こどもの成長に関する政策を一元化し充実、強化

**こども  
まんなか**

連携

文部科学省  
義務教育  
幼稚園、いじめ対策

移管

内閣府  
少子化対策、児童手当  
こどもの貧困対策 など

移管

厚生労働省  
児童虐待対策  
ひとり親家庭支援  
保育所、母子保健 など

こどもまんなか社会実現のための司令塔として創設（縦割り打破）

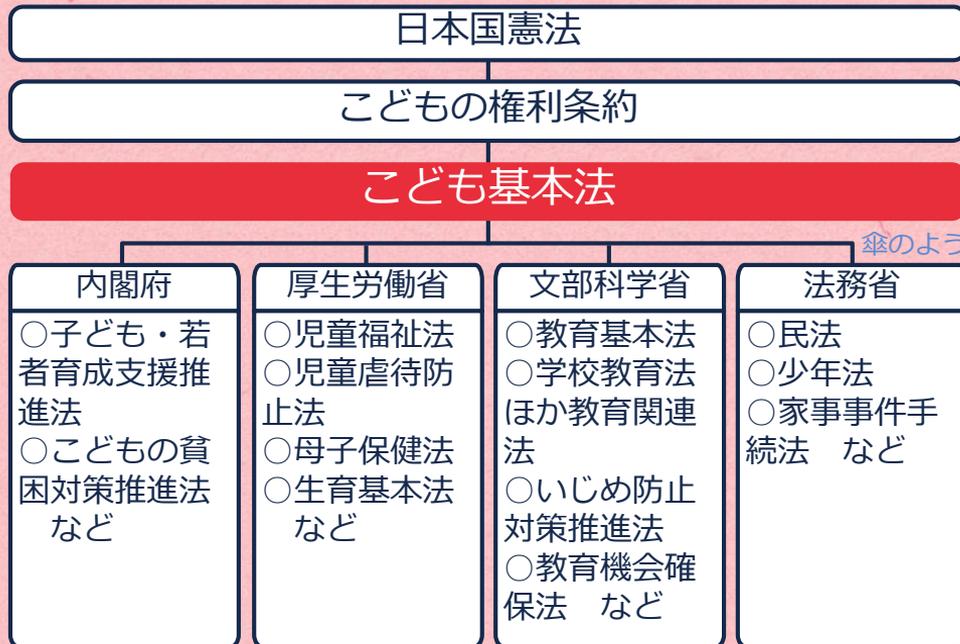
こどもと家庭の福祉・保健・その他支援、こどもの権利利益の擁護を一元化

年齢や制度の壁を克服した切れ目のない包括的な支援

こども・子育て当事者の視点に立った政策の実現



# [国]こども基本法の施行（令和5年4月）



平成6(1994)年こどもの権利条約批准の際、政府は現行法でもこどもの権利は保護されているとの立場を取り、法整備をしなかった

傘のように全体にかぶさる

令和5年4月1日、憲法や国際法上認められるこどもの権利擁護を、養育、教育、保健、医療、福祉などの分野で整合性をもって実施するため、こどもの権利を包括的に保障する「こども基本法」を施行



市民WS資料

# [国]こども大綱の決定（令和5年12月）

## こども大綱の目指すこどもまんなか社会

こども  
まんなか社会  
の実現



全ての人の  
社会的価値  
の創造、  
幸福度の向上

こども基本法に基づき、向こう5年間、国が取り組むこども施策の重要事項を定めた文書（R5.12.22閣議決定）

こども基本法において、こども大綱を勘案した自治体こども計画を策定するよう各自治体に努力義務を課す

こども・若者の尊厳が守られる  
自分らしく意欲や能力を活かせる  
こどもを産み育てたい希望が叶う

少子化・人口減少の流れを変える  
未来を担う人材を社会全体で育む  
社会経済の持続可能性を高める



# [国]はじめての100か月育ちビジョンの決定 (令和5年12月)

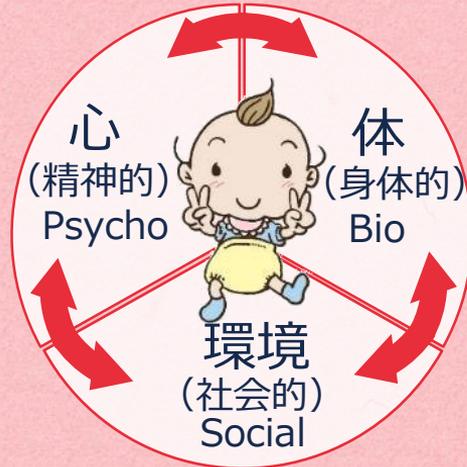


市民WS資料

## ビジョンの目的

生涯にわたる  
こどものウェルビー  
イングの向上

社会全体の  
ウェルビーイング  
の向上



はじめての100か月とは  
妊娠中 未満児 以上児 小学1年

10か月 平均78か月 12か月

将来にわたるウェルビーイングに特に重要な時期のこどもの育ちに直接・間接的に関わる全ての国民に示すために基本的な考え方を示した文書 (R5.12.22閣議決定)

心と体と環境は互いに影響しており、ウェルビーイングは全てを一体的に捉えた幸福であるため、こどもの心と体、周囲だけでなく**社会全体を整える必要あり**

家庭や保育施設、地域など、こどもの育ちを支える社会は全てつながっており、**地域社会を構成する全ての人が当事者であり、こどもの育ちに関する役割がある**



市民WS資料

# [国]こどもの居場所づくり指針の決定 (令和5年12月)

## 指針の背景

価値観の多様化  
社会環境の変化  
地域力の低下  
課題の複雑化 など

居場所づくりの  
重要性や緊急性  
が高まる

多様な人との関わりの中で成長することも（全ての人）には、**安心できる居場所**が**不可欠**であるとして、居場所づくりの取り組みが広がるよう基本的な考え方を示した文書（R5.12.22閣議決定）

### I はじめに

全ての子ども・若者が

- 安全で安心して過ごせる多くの居場所を持つ
- 様々な学びや、社会で生き抜く力が得られる多様な体験活動や遊びの機会を得る
- 身体的・精神的・社会的に将来に渡って幸せな状態(well-being)で成長
- こどもが本来持っている主体性や創造性を十分発揮し社会で活躍



こども  
まんなかの  
居場所  
づくり

well-being(ウェルビーイング)とは、身体的のみでなく、精神的、社会的にも良好(well)で満たされている状態(being)、広い意味の幸福のこと

こどもは家庭を基盤に、地域や学校など安全安心な環境で、様々な大人や子ども同士の関りのなかで成長

ライフステージに応じた居場所を**誰もが切れ目なく**持てるようにする

二ーズを踏まえた**多様な居場所づくり**を推進

# [国]こども未来戦略、 こどもまんなか実行計画の推進

## こども未来戦略

こども・子育て政策を抜本的に強化し、**次元の異なる少子化対策を実現**するための国家戦略  
(R5.12.22閣議決定)

「加速化プラン」は令和6年度からの3年間

【乗り越えるべき3つの大きな課題】

- ①若い世代が結婚や子育ての将来展望を描けない
- ②子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある
- ③子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感が存在する

【基本理念】

- ①若者・子育て世代の所得を増やす
- ②社会全体の構造や意識を変える
- ③全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する

【主な取組み】

児童手当の大幅拡充

出産・子育て応援交付金

保育士配置基準の見直し

こども誰でも通園制度創設

学校給食費の無償化

高等教育の負担軽減

出産費用の保険適用

育児休業の取得促進

## こどもまんなか実行計画 $\frac{2}{2} \frac{0}{0} \frac{2}{2} \frac{4}{5}$

具体的な取組みを、年度単位にとりまとめた  
アクションプラン（毎年6月頃に更新）

取組み状況や検証を踏まえ、次年度の取組み  
に反映するPDCAサイクルにより施策を推進

# [国]具体的な取組みの紹介

令和4年度の国補正予算で開始  
令和7年度から法定給付

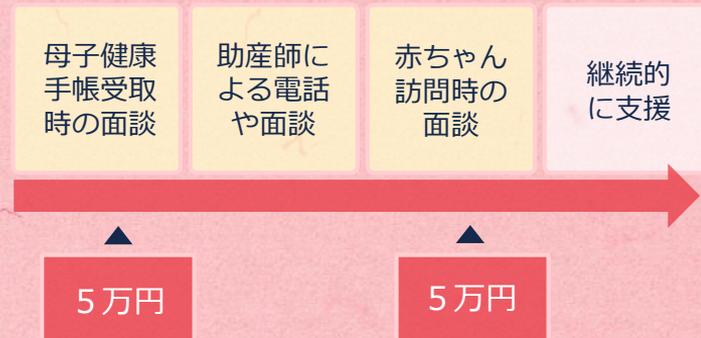
## 児童手当の大幅拡充

	～令和6年9月	令和6年10月～	第3子以降 3万円	
0～2才	1万5千円	1万5千円		
3才～ 小学生	1万円	第3子以降 1万5千円		1万円
中学生	1万円	1万円		
高校生	なし	1万円		

所得制限の廃止  
第3子以降のカウント方法見直し  
年3回支給→年6回支給

## 伴走型支援、 妊婦のための支援給付

妊娠初期    8か月頃    出産・産後    子育て期

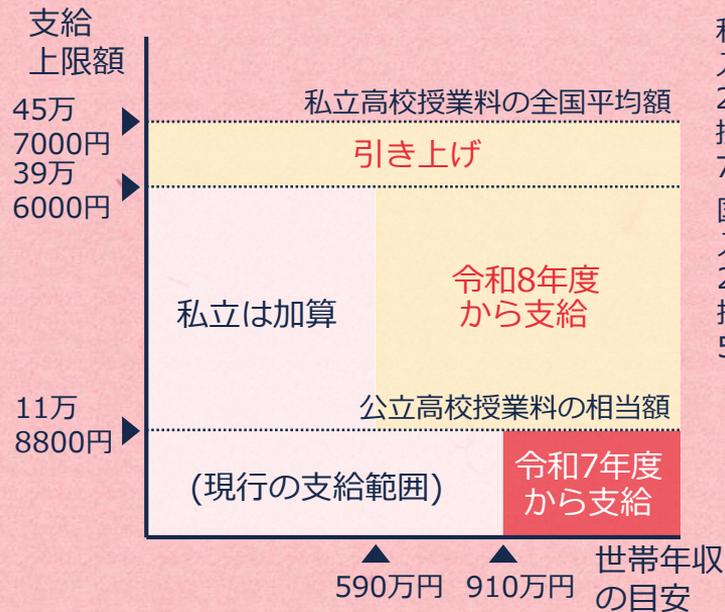


子ども・子育て支援法に基づく制度化  
(令和7年度～)  
切れ目のない相談支援と給付金の支給

# [国]具体的な取組みの紹介

## 高校授業料の無償化

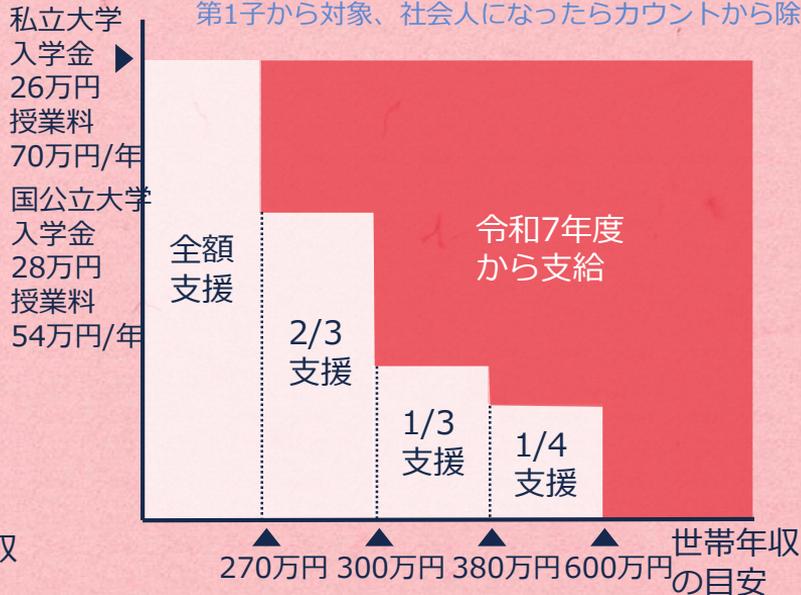
就学支援金の引き上げ、所得制限を廃止



## 多子世帯の大学授業料の無償化

こどもを三人以上扶養する家庭の所得制限を廃止

第1子から対象、社会人になったらカウントから除外



# [国]具体的な取組みの紹介

## こども誰でも通園制度

保育所等に通っていない生後6か月から満3歳未満のこどもが時間単位で柔軟に利用  
(こども一人あたり10時間/月)

令和8年度から全国の自治体で実施

⇨既存の「一時保育」と類似

## 保育士配置基準の見直し

4～5歳児 (令和6年度～) 見直されたのは76年ぶり

30対1



25対1

1歳児 (令和7年度～)

6対1



5対1

## 共働き・共育での推進

### 出生後休業支援給付

今年度、高山青年会議所 (JC)  
70周年事業のテーマ「共育て」

こどもの出生後に両親ともに14日以上  
の育児休業を取得した場合、**最大28日間、  
手取りの10割相当を支給**

### 育児時短就業給付

こどもが2歳未満の期間、時短勤務により  
賃金が低下した場合、時短勤務時の**賃金の  
10%**を支給

### こどもの看護休暇

対象年齢を未就学から**小3修了まで引き上  
げ**、こどもの行事(入学式、卒業式)、感  
染症に伴う学級閉鎖等でも活用可能

# [国]事業費と財源

これら  
「加速化プラン」の事業費

3.6兆円/年

これにより、我が国の一人あたり  
家族関係支出がOECDトップ水準の  
スウェーデン（15.4%）を上回る

規定予算の活用

1.5兆円

社会保障の歳出改革

1.1兆円

高額療養費  
の見直し → 批判受け  
凍結  
薬価改定 等

子ども・子育て支援金

1.0兆円

「独身税」と話題  
ステルス増税（国民負担率の上昇）

令和8年度～  
医療保険と  
合わせて納付  
年収600万円  
の社員で月  
約1,000円

# [県]岐阜県こども計画（令和7年3月）の推進

## 目指す将来像

全てのこどもが権利の主体として尊重され、夢や希望を持ちながら健やかに成長し、将来にわたって幸福な生活を送ることができる「ぎふっこまんなか社会」

### 4つの柱

#### 1 ライフステージに応じた切れ目のない支援

こどもの権利擁護、社会参画・意見表明機会の創出、こどもの健全な育成  
妊娠から子育てまでのきめ細かな支援の充実、幼児期の教育保育の充実  
健やかな成長への支援、青年期成人期に向けた保健対策や医療体制の充実  
若者を呼び込む施策の推進、結婚の希望がかなえられる環境づくり

#### 2 困難な状況にあるこどもへの支援

配慮を要するこどもへの支援、社会的養育の推進  
こどもの貧困対策の推進

#### 3 子育て中の方への支援

子育てや教育に関する負担の軽減、仕事と子育ての両立支援  
安心してこどもを預けられる受け皿づくり、ひとり親家庭への支援

#### 4 社会全体でのこども・子育て支援

社会全体でこどもを支えていく仕組みづくり  
こどもの健やかな成長を支える家庭と仕事の調和を実現する環境づくり



03

高山市のこども政策の展開

# 足元を眺める

20年ぶりに新しい姿形をした計画が爆誕、  
一緒になって推進 →大事

核  
心  
部





# こども未来部を創設（令和6年4月）

## 子育て支援課を部に昇格

子ども≒児童 18歳以下  
こども 心身の発達過程にある者（年齢で区切らない）



こどもに関する事務事業をできるだけ集約しワンストップ化(教育委員会の一部職員を兼務)

職員体制を拡充

執務室を移転

# こども未来計画を策定（令和7年3月）



平成17年度以降20年間更新を重ねてきた「子どもにやさしいまちづくり計画」を刷新



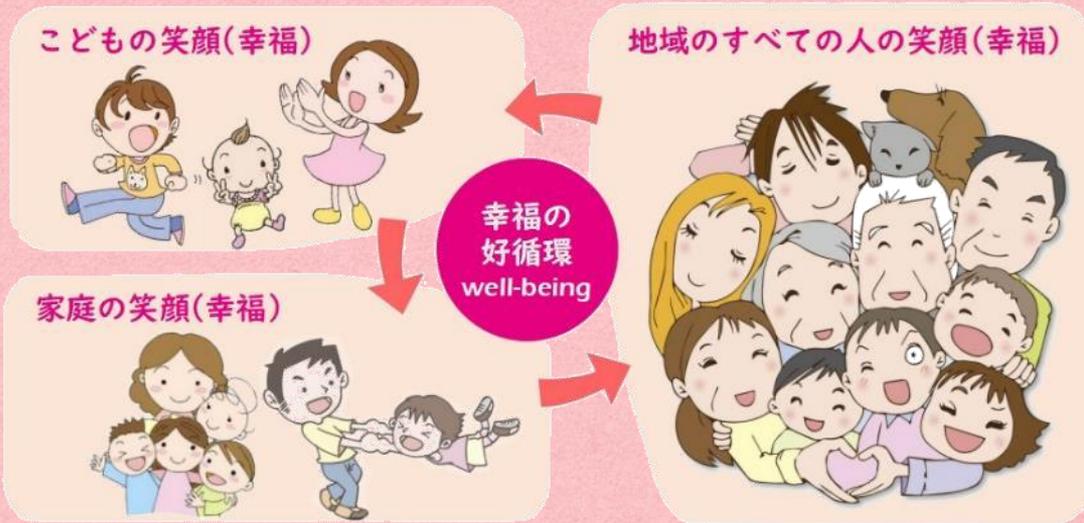
計画策定に際し多様な市民参加を実施

市民アンケート(こども、保護者、妊婦とパートナー)  
意見交換会、ワークショップ、ヒアリング、出前授業  
審議会、パブリックコメント



# こども未来計画の目指す姿

こどもや若者に関する取組みを地域社会のまんなかに据え、  
まちぐるみで笑顔のこどもを育むことにより、家庭の幸福、  
やがてはまちに暮らす全ての人の幸福へとつなげ、  
未来が明るく広がるような、まちを挙げた取組みを進める



目指す姿(基本目標)



笑顔あふれるこども  
を育み 未来につなぐ



# こども未来計画の重視すべき視点

これまでの課題やこども大綱などを踏まえ当市におけるこども施策の推進に際して5つの重視すべき視点（基本姿勢）を設定

こどもの権利条約  
こども基本法など由来



1. こどもの権利が大切に守られること

2. こどもが意味ある参加をできること

3. こどもの立場で考えてもらえること

4. こどもの支援の輪が引継がれること

5. こどもが地域で温かく育まれること

「孤独な子育て」を支えるといった構図では現状は改善しないこどもの誕生や成長をともに支え、喜びあえる地域づくりにより、誰もが将来に夢や希望を持てる社会につながるこどもの豊かな育ちを、家庭のみならず地域が一緒になって支えるといった意識を共有し、実践していく必要がある



# こども未来計画の取組みの柱

「こども政策」は非常に広範に及ぶ

目指す姿（基本目標）の実現に向けた取組みの柱（施策体系）として、  
分野別の取組みに対し、分野横断による取組みをクロスさせて配置

「支援」も大事やが、  
この頁では5つのみ



## 1 こども家庭の「心身の健康」の推進

健全育成、公園、木育、母子保健、健康、医療



## 2 こども家庭への「豊かな日常」の提供

子育て支援、保育・幼児教育、雇用労働、結婚支援  
学校教育、家庭教育、文化芸術、スポーツ、若者、移住定住



## 3 「誰も取り残さない」こども家庭への支援

障がい児支援、児童虐待対策、ひとり親支援、社会的養護  
住宅、多文化共生

分野別の取組み



4

こどもの「権利擁護」の周知啓発



5

こどもの「意見反映」と参画促進



6

「官民連携」によるこども家庭の施策推進

分野横断の取組み

# こども未来計画の主な取組み



## 1 こども家庭の「心身の健康」の推進

### (1) こどもの心と身体を健全に育む環境整備の推進

#### ① 魅力的なこどもの遊び場の創出と活用の推進

駅西地区複合多機能施設の整備

つどいの広場の拠点整備

木遊館の運営、木育推進

公園長寿命化整備計画に基づく改修・整備



イメージ

#### ② こどものライフステージに応じた居場所づくりの推進

官民連携によるこどもの居場所づくり

放課後児童クラブにおけるデジタル推進

メタバース活用による不登校児童生徒の適応指導

### (2) こどもと家庭の健康維持を図る伴走支援の推進

安心して就学を迎えるための5歳児健診、事後指導の推進

助産師など専門職による相談支援の強化

公共施設への授乳室の整備

こどものワクチン接種助成

母子保健情報等のデジタル化



### (3) こどもが適切に受診できる医療体制確保の推進

中核病院等との連携による地域医療体制の維持

医学生への支援などによる医療人材の育成確保

開業医の確保に必要な支援方法などの検討

# こども未来計画の主な取組み



## 2 こども家庭への「豊かな日常」の提供

### (1)安心して産み育てられるこども家庭支援の提供

#### ①各種給付や負担軽減など経済的支援の提供

子育ての経済負担軽減のための**各種給付や助成の充実**  
安全安心な妊娠出産のための**交通費**などの支援  
バランス等を踏まえた「**こども料金**」のあり方の検討

#### ②ニーズに応じたきめ細かな託児・支援サービスの提供

**ファミリーサポート**の課題改善と利用促進に向けた見直し

### (2)家庭の就労や育ちを支える保育サービスの提供

少子化を踏まえた**保育・幼児教育施設のあり方**の検討  
空調など**保育環境の整備**、**医療的ケア児**の受入れ促進  
**保育士の処遇改善**、労働環境向上など保育人材の確保

### (3)学校や家庭、地域での豊かな学びや体験の提供

**心のスクール検討委員会**による医療的見地を踏まえた対応  
学校の適正規模を考慮した**施設整備**、**適正配置**の検討  
こどもの成長等につながる**体験や学習機会の充実**

### (4)若者が夢や誇りを持ち活動できる環境等の提供

- ①若者の地元愛が生まれ活動が活性化する支援等の提供  
若者の主体的な**活動支援**、**地元就職と定着**の促進
- ②若者の結婚や定住の後押しとなる様々な環境等の提供  
市内産業の**イノベーションの誘発**と生産性の向上  
結婚のきっかけとなる**出合いの創出**、**結婚新生活**への支援  
性差による**固定的役割分担意識の解消**に向けた啓発

# こども未来計画の主な取組み



## 3 「誰も取り残さない」こども家庭への支援

### (1) 困難を抱えるこども家庭への切れ目のない支援

#### ① こどもへの虐待防止、悩みや不安の解消に向けた支援

こども家庭センター、関係機関が連携したこども家庭支援  
こども家庭相談システムの導入による切れ目のない支援

#### ② こどもの発達に向けた個に応じた適切な支援

学校や地域、関係団体などのサポートネットワークの整備  
保護者の経済負担に配慮した通園等助成制度の見直し

#### ③ 経済的に困窮するこどもや家庭に対する支援

高校中退者などの社会的自立に向けたサポートの充実  
困窮家庭に対する様々な支援の検討  
多くの機関が連携した重層的支援体制の構築  
市営住宅の適正配置による安定的な住環境の提供

### (2) ひとり親家庭の自立促進に向けた積極的な支援

高校進学など節目に合わせた経済支援の検討

経済的自立を促す資格取得の支援

家事育児などのサポートの充実

離婚時の養育費などの取り決め  
促進のための支援の検討



### (3) 多様性を有するこども家庭への温もりある支援

在住外国人への様々なサポートや事業者への支援

異なる文化を持つ人々が安心して暮らせる環境づくり

多様な文化や異なった価値観を尊重する市民意識の醸成





こども未来計画

# こども未来計画の主な取組み



## 4 こどもの「権利擁護」の周知啓発

こどもの権利の市民全体への周知、理解促進  
「こどもの権利条例(仮称)」の検討



## 5 こどもの「意見反映」と参画促進

こどもがまちづくりに参画する仕組みづくり  
オンライン意見箱など意見聴取や参画機会の創出



## 6 「官民連携」によるこども家庭の施策推進

戦略的な情報発信  
相談や仲間づくりなど交流の促進  
地域課題に取り組む様々な担い手による協働の促進

計画期間は5年間で、できることから着実に進めます  
書いてないからやらないということでもありません  
引き続き、皆さんの声をお聴かせください





# 04

特に重要と思うことを焦点化

## 妄想を並べる

市の公式見解ではないとお断りしたうえで、いくつかの視点を提供

おまけ



現在の状況下 & 当地で、特に注力すべき  
と前田が考える3つの視点を紹介

効果が高い、あるいは  
必要に迫られる

巨大な脅威

## ① 性別による固定的役割分担意識

高山だからできること、そういう考えになるということ

## ② 若者や子育て世代に選ばれるまち

放っておいても多様化が進むなかで

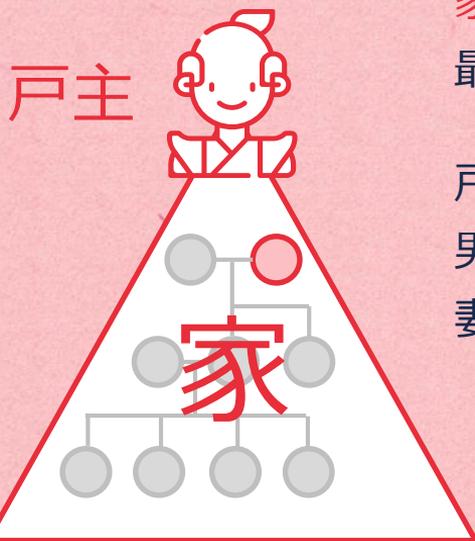
## ③ 多様性×アイデンティティ

# ①性別による固定的役割分担意識

原因

[家父長制]～戦前(旧民法)の[家制度]

1947 (S22) 年廃止  
約80年経過した今も名残り



家の繁栄が重要で、個人の意思は尊重されない

最年長男性が戸主権※を持つ

※財産の管理、居住地の決定、結婚の同意など

戸主は家族を養う義務を負う

男系長子が戸主権を単独で相続（家督相続）

妻は夫の姓を名乗り、夫の家に入って子を産み育てる

【名残り・根深い意識】 選択的夫婦別姓制度、女性女系天皇の議論なども

〇〇家へお嫁に行く、入籍する（戸籍に入る）と言う

本家、分家と呼ぶ

婚姻すると男性側の氏を選択することが多い

長男（跡継ぎ）が家や生業を継ぐ、親の面倒をみる

夫は外で働き、妻は家を守る（家事育児、介護を担う）

無償労働

# ①性別による固定的役割分担意識の解消

対処

最近はずいぶんと変わってきていると思いますが、まだまだあるのでは

## 家庭

男性の家事育児への参加を促進 → 女性が担う前提  
チャイルドペナルティの問題  
子どもや家庭の問題を外（世間）に出すのは恥

孤独な子育て（孤育て）

結婚や子どもを持つ  
という選択を回避

## 仕事

男性は主要（正社員）、女性は補助的（パート）  
男性の長時間労働、育児で休みづらい雰囲気  
男性社会の中でも年長者優先、師弟制度の名残り

変えていかないと、若い人材確保がますます困難に

父親の家事育児を困難に

若者が子どもを持つこと  
を困難に

## 地域

男性が家の代表として地域行事へ出席  
首長、議会など意思決定機関に女性が少ない現状  
子どもや子育て家庭は私には関係ない（騒がしい）

市区町村議員は2割以下  
首長は50人に1人

社会制度が旧態依然

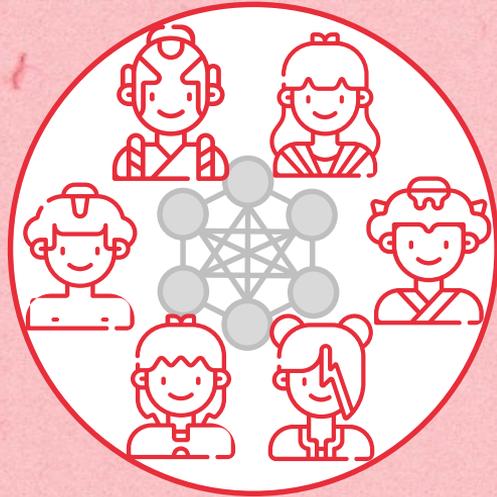
子どもや子育て家庭の  
肩身が狭い

男女ともに希望に応じた生き方が選択でき、それを支えらえる社会、  
人々の意識が変わっていかないと、少子化は加速するばかり



## ②若者や子育て世代に選ばれるまちづくり 問い

人は何のために生きるのか？（至極、哲学的な問い）



明確な答えはなく、自己実現や他者との関係を通じてそれぞれが自分なりの目的や意味を見出す必要がある

生物としては、「生きたい」「子孫を残したい」という欲求が遺伝子レベルで備わっているはず 事実、自分も誰かの子孫だし

AIが人間を超える時代、もっと焦点化されるべき問い  
大都市と同じ土俵（目的や意味）で勝負しても敵わない

【大都市で生きる意味（前田の推測）】 選択肢が増えることは良いが  
質や量にも限界がある

大企業でバリバリ働いてお金がたくさん稼げる  
便利で快適、都会的な暮らしができる  
買い物、教育、レジャーなど選択肢が豊富にある  
他人からの干渉が少ない（ゴーイングマイウェイ）

→総じてこどもを持たない方が大都市では有利

## ②若者や子育て世代に選ばれる飛騨高山

答案

### 生活

選べば

職住近接、スタバや無印、ドンキなど店舗が充実  
食の安全、犯罪少ない、南海トラフ地震をサバイブ  
人と人とが近い、互いの顔の分かる人間関係

ある程度の利便性を享受し、  
家族の命を守る  
他者との関係性のなかでこ  
どもと共に成長

### 仕事

小規模でも活躍、感謝される、誇り・やりがい  
木工業や農業の隆盛、デジタル産業の創出  
交流人口500万人を相手にした勝負も可能

生き生きと働く親の背中を  
こどもに見せる  
地方都市のなかではチャン  
スが多い

### 余暇

身近にBBQや自然体験、ウインタースポーツ  
競争が少なく、受益が得られやすい  
オンラインの普及により地理的不利は縮小

身近で気軽に様々な機会が  
得られる  
こどもや家族、仲間と楽し  
い休日

飛騨高山で子育てしながら「豊かな人生」を生きたいと考える層に  
リーチし定住を促す、幸福の増殖に「こども」はとても重要な要素



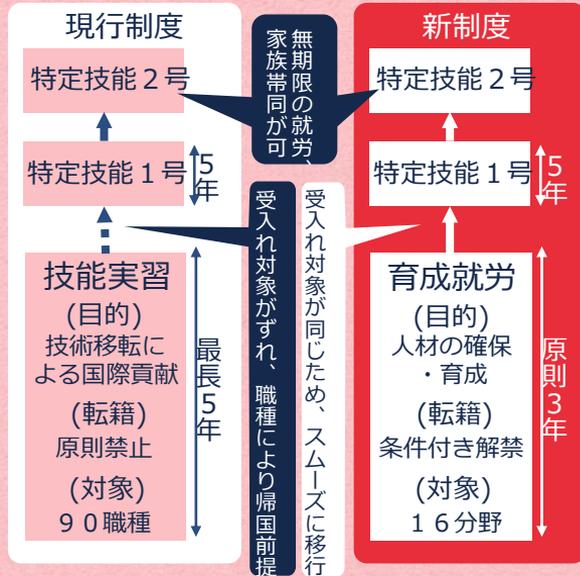
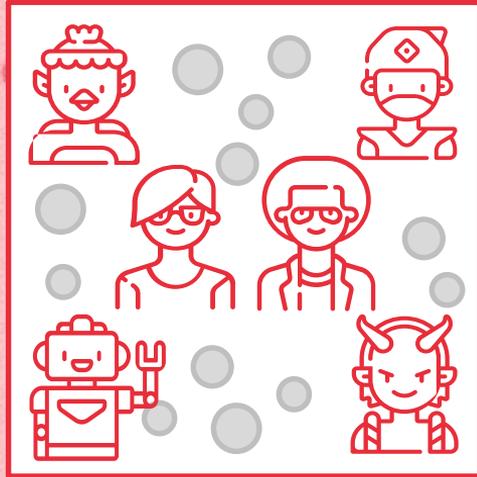
# 変化

## ③多様性×アイデンティティ

### ゲームチェンジが起きる（育成就労制度へ移行）

国際的に人材獲得競争が激化するなか、労働者に選ばれる国を目指し、30年以上続いた外国人技能実習制度を抜本見直し（R9頃）

「使い捨て」の労働力 現代の人買い（奴隷制）  
→長期間産業を支える人材確保



【何が起こるか】  
外国人材を含めた労働市場が流動化し、地域(企業)間の競争や差異が拡大  
外国人世帯や外国ルーツのこどもの増加  
より多様となる社会のなかで、飛騨高山の美観や文化などを共有し、守り継げるか



### ③多様性×アイデンティティ = 幸せなまち

適応

#### 外国人

国籍を問わず**人材を雇用したい人**は、高い価値の創造により相応しい対価を得て、良い雇用条件や福利厚生、子育てし易い労働環境を提供する必要

国籍を問わず**地域住民**は、互いの理解と尊重により、誰もが安心して、楽しく過ごせるコミュニティづくりが必要

国籍を問わず**子ども**は、その子らしく健やかに成長できる環境が必要

▶ 同じ地域に暮らす者として互いの理解と尊重のもと、適度に混ざり合っていく

#### 関係人口

国内外の**関係人口**を増やすことも、持続可能な将来のため重要 交流人口（観光客）以上、定住人口（市民）未満

豊かな自然、安全で美味しい食、祭礼などの文化を活かし、保育園や学校等が**子どもの受け皿**となり、関係を深めていくことも重要

▶ 互いにメリットがあり、長く続けられる関係づくりにより関係の輪が拡大していく

外国人や移住者といった「くくり」ではなく、このまちが好きで関わりある者として、皆の幸福度を高めていきたい

シビックプライド（まちへの愛着や誇り）  
飛騨高山ファン



# 終わりに

---

私たちは、年代、立場や役割などは違っても  
同じ時、同じ「船」に乗る運命共同体のようなもの

海が荒れ、雨風も強く、遠くは見通せないなかでも  
より良い未来へと針路を向け、漕ぐ手に力を増していくべき  
そのためには皆が同じ方向を目指し、協力し合うことが重要  
小さいことでも、一人が何かできることをすれば、広がり、  
積み重なり、やがては「船（≡高山に暮らす全ての人）」  
の未来を、大きく良い方向へ変えられるに違いない

**THANKS!**

**END OF PRESENTATION**

**[k.maeda@city.takayama.lg.jp](mailto:k.maeda@city.takayama.lg.jp)**

**0577-57-7001**

